

第 35 回関東アコーディオン演奏交流会

講評と審査結果とまとめ

2023 年 9 月 17 日 北区滝野川会館

審査員

大田智美 川口裕志 北村聡 (バンドネオン奏者) 柴崎和圭 杉山卓 松永勇次

ゲスト審査員：鈴木大介 (ギタリスト) (五十音敬称略)

* 各部門審査員 ★は各部門審査委員長 (五十音敬称略)

ジュニアの部 初心者の部 **A B** ★大田智美 杉山卓 松永勇次

シニアの部 **A B** ★川口裕志 北村聡 柴崎和圭 鈴木大介

一般中級の部 大田智美 川口裕志 北村聡 ★柴崎和圭 杉山卓 松永勇次 鈴木大介

一般上級の部 大田智美 川口裕志 北村聡 柴崎和圭 杉山卓 ★松永勇次 鈴木大介

参加人数ジュニアの部 (2) 初心者の部 **A** (4) **B** (6)

シニアの部 **A** (1) **B** (17) 一般中級の部 (28) 一般上級の部 (7) 合計 出場者総数 (65)

第 35 回関東アコーディオン演奏交流会 審査結果

《ジュニアの部》

1 位 高橋芽生 Libertango

2 位 木下まこと コロブチカ

《初心者の部 A》

1 位 木下直紀 Victory Rag

2 位 小林さゆ希 Jeux d'enfants

3 位 富山淑清 カプリ島

努力賞 関根貞夫 Amazing Grace

《初心者の部 B》

1 位 金田斉 Mazurka du Diable

1 位 宝田芙由子 Take the "A" Train

3 位 市来りな さよならの夏

入選 綾部美希 Reine de Musette

入選 坂口拓 Oblivion

入選 佐藤聖子 Indifférence

《シニアの部 A》

努力賞 阿部鈴雄 荒城の月

《シニアの部 B》

1位 高田裕子 Mr.R.S.

2位 石橋友子 白樺

3位 南野知恵子 ワルツ第2番

入選 磯部裕子 コンサートワルツ

入選 浜崎秀子 クロードのタンゴ

入選 七田和弘 アメリのワルツ

入選 山口伊知郎 愛のあいさつ

《一般中級の部》

1位 島田彩乃 La Mariposita (The Butterfly)

2位 山中智子 ブルガリア組曲より Daichovo Horo, Gankino Horo

3位 水野美緒 ラプソディ・イン・ブルー

入選 冠雅人 海に見える街

入選 鈴木麻紗子 ゴリウォークのケーキウォーク

入選 山本典子 フラカナーバ

入選 茅根恵子 ジェラシー

はじけてたで賞 千田康司 Giochi di Prestigio

奨励賞 鳥塚みや子 Top of the World

奨励賞 青木恵美 Elite Syncopations

《一般上級の部》

1位 小林のり子 Arabesques No.1,2,10

2位 小野寺彩香 「管弦楽組曲第2番」より ロンド、ポロネーズ、バディヌリ

3位 渡部由美子 ポーランドのルネサンス音楽より

入選 森藤みちる La Valse a Margaux

鈴木大介賞 後平濤子 憧憬

審査のまとめ

出場者総数が 65 名観客 98 名と参加総数 160 名を上回る結果となりました。

(今回は出場者も多かったですが、聞きに来てくださった方も多かったです)と事務局から連絡をいただきました。

今回のコンクールは、実行委員会を中心に JAA と連帯共同した取り組みがあり、それが新たな参加を触発し。結果として音楽的にも充実した内容となりました。

各部門の全ての演奏は出場された皆様の思いが伝わってくるように感じました。

特に、選曲、編曲、演奏に工夫が見られ、自分で編曲された譜面も多く見られました。

この点、初心者クラスでもハイレベルな個性的な演奏がありました。これは他のクラスでも顕著でした。シニアクラスはアコーディオンを通じて、音楽の喜びを表現する為の様々な技術的な努力が見られ、決して易しくはないこの楽器だが、技術に応じたこの様な努力工夫は素晴らしいことと感じています。

中上級クラスにおいては更にオリジナル作品やアレンジにおいて、指導されている先生方の努力も随所で見る事が出来ました。バッハ、バロック等においても同様に、アレンジや演奏の工夫がありました。これら全てソロアコーディオンの可能性につながるもの、無限の可能性を感じさせてくれました。演奏に於ける左右のバランス、ペローイング、レジスター、タッチセンス等、こういったアコーディオンの音色創りの工夫は我が意を得たりでした。高度なプロレベルの水準と、アマチュアの持つのびのびとした音楽が同居した形でのこの演奏交流会の審査は難しい課題でしたが、今回の審査委員会の先生方(先生とは呼ばないことにしたが)この長時間のこの難しい審査に粘り強く対応してくださいました。

審査の中では音楽としての魅力が評価され、よりベターな結果として認め合う事ができました。

例年通り今回も審査を始める前に『審査要項』を読み合わせました。このコンクールのルールは勿論、歴史や考え方まで記載されています。私はこのコンクールの当初から、川口裕志先生初め講師懇談会の先生方と関わってきました。この『審査要項』は実行委員会と協力して作りました。幾つかの改善点が提起されたように感じています。

ご出場された皆様、準備運営に関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。私は、先の連帯共同から生まれた可能性に新しい関東コンクールを夢見しています。

審査事務局オブザーバー 松永勇次